



1201100596975

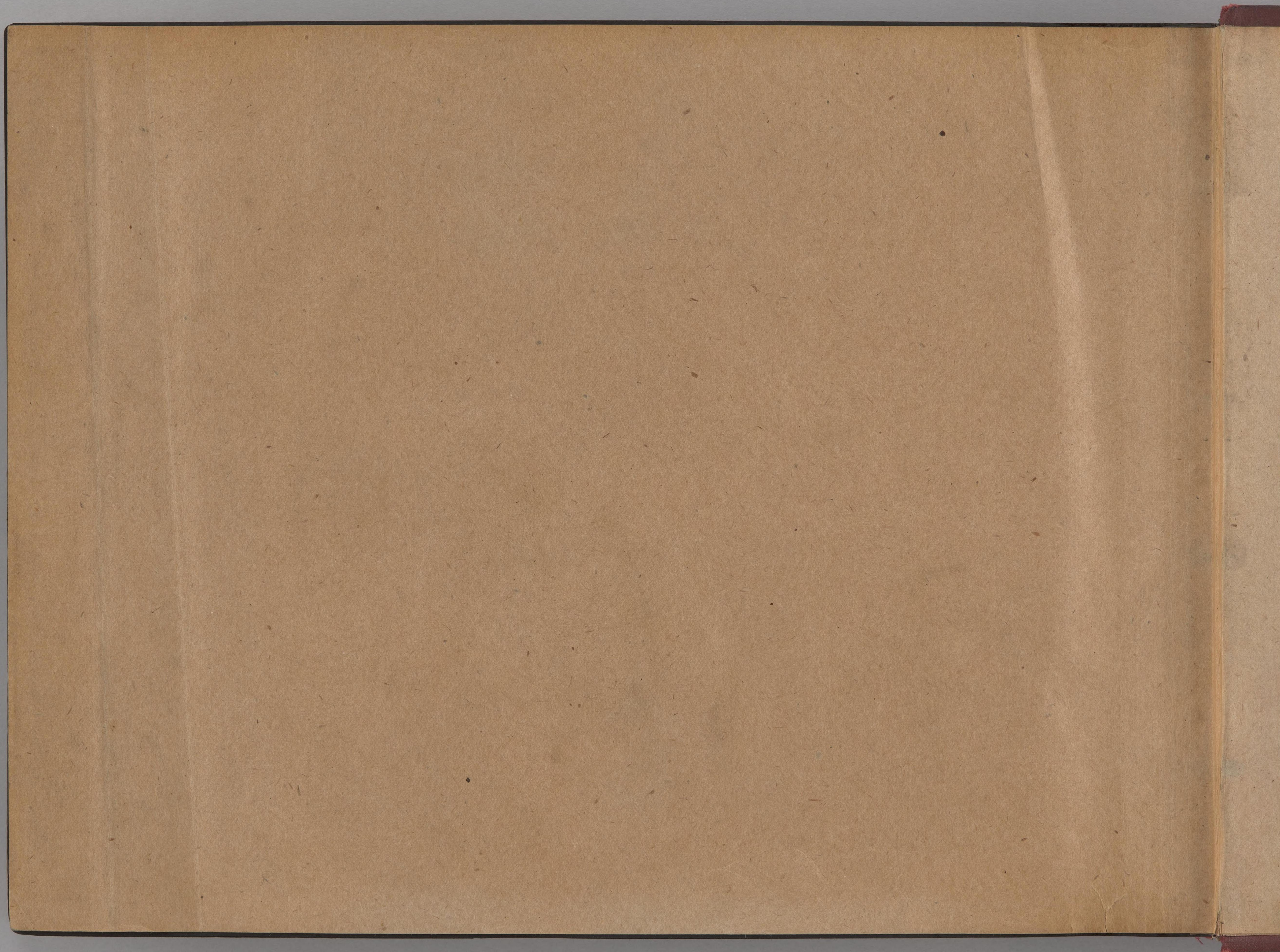
Z72

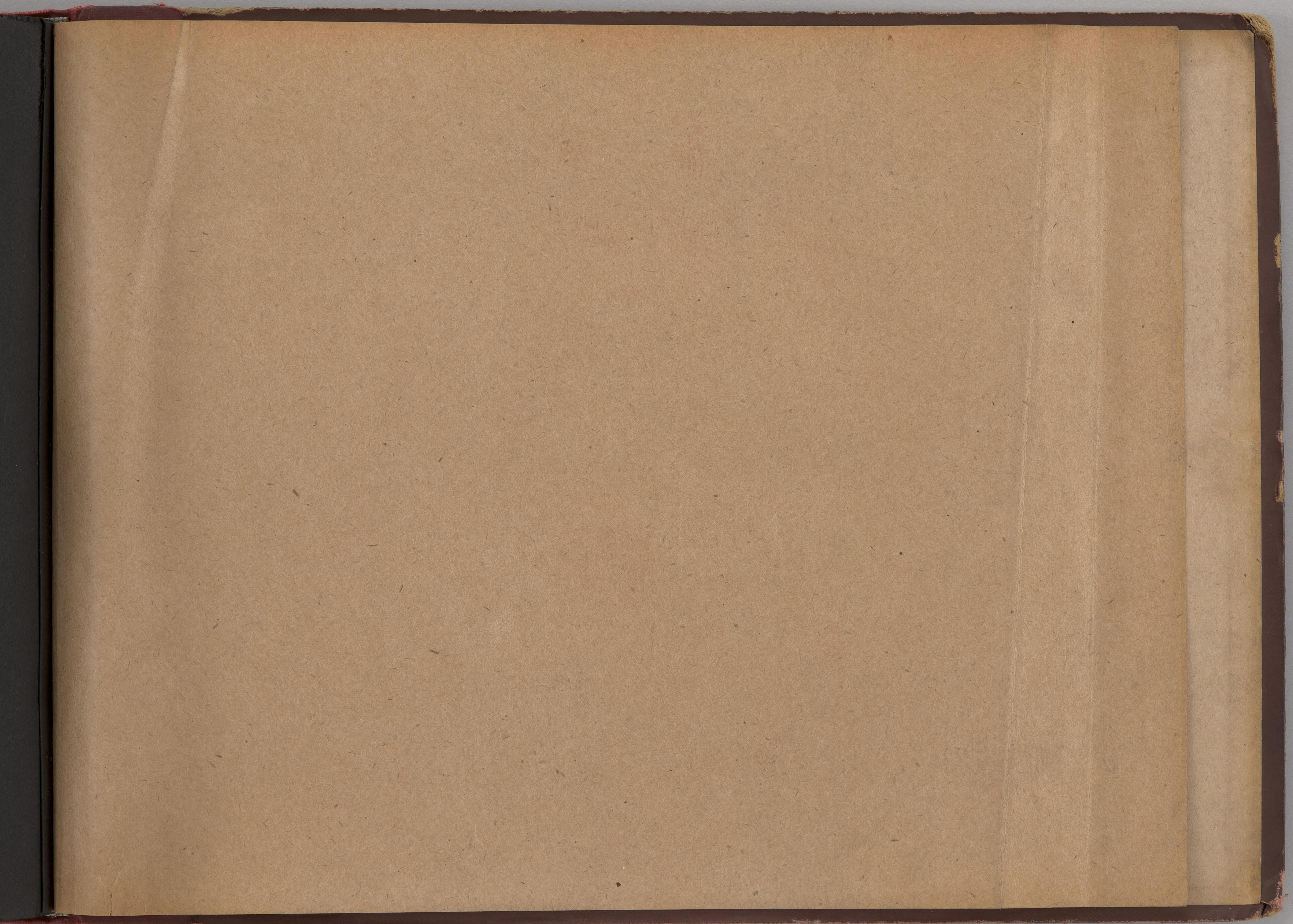
C701

禁電子式複写

E

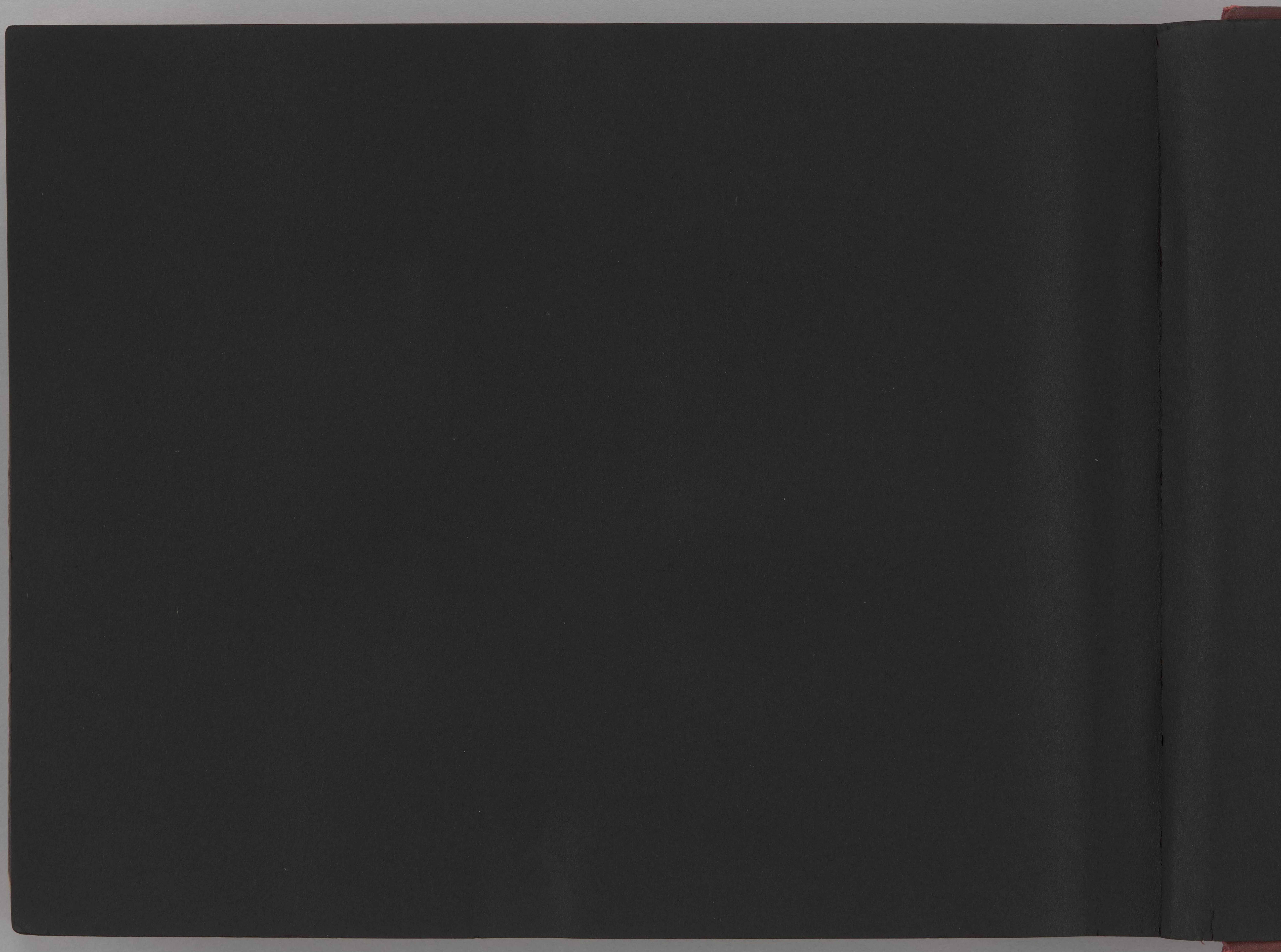












同書寫真部主月日曜日内地通信

回甘蘭印新使節甘方沢氏

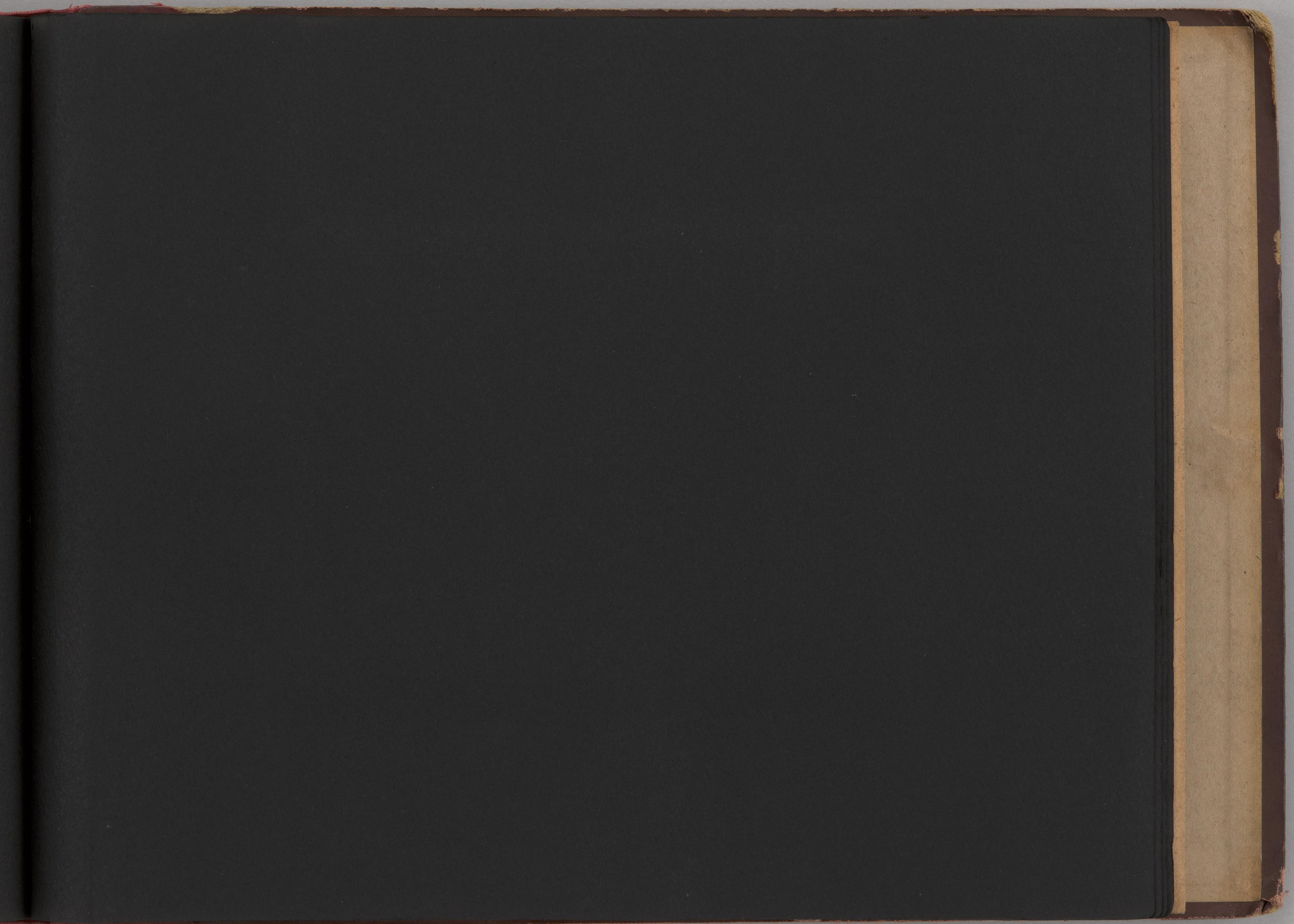
政府は東亞共榮圏確立の政策遂行の見地から日
蘭交渉を重視し、材料の相互後任として甘方沢
氏を特命使節とするに決した。
山崎武平氏記者団と会見する甘方沢氏
(杉本氏名)

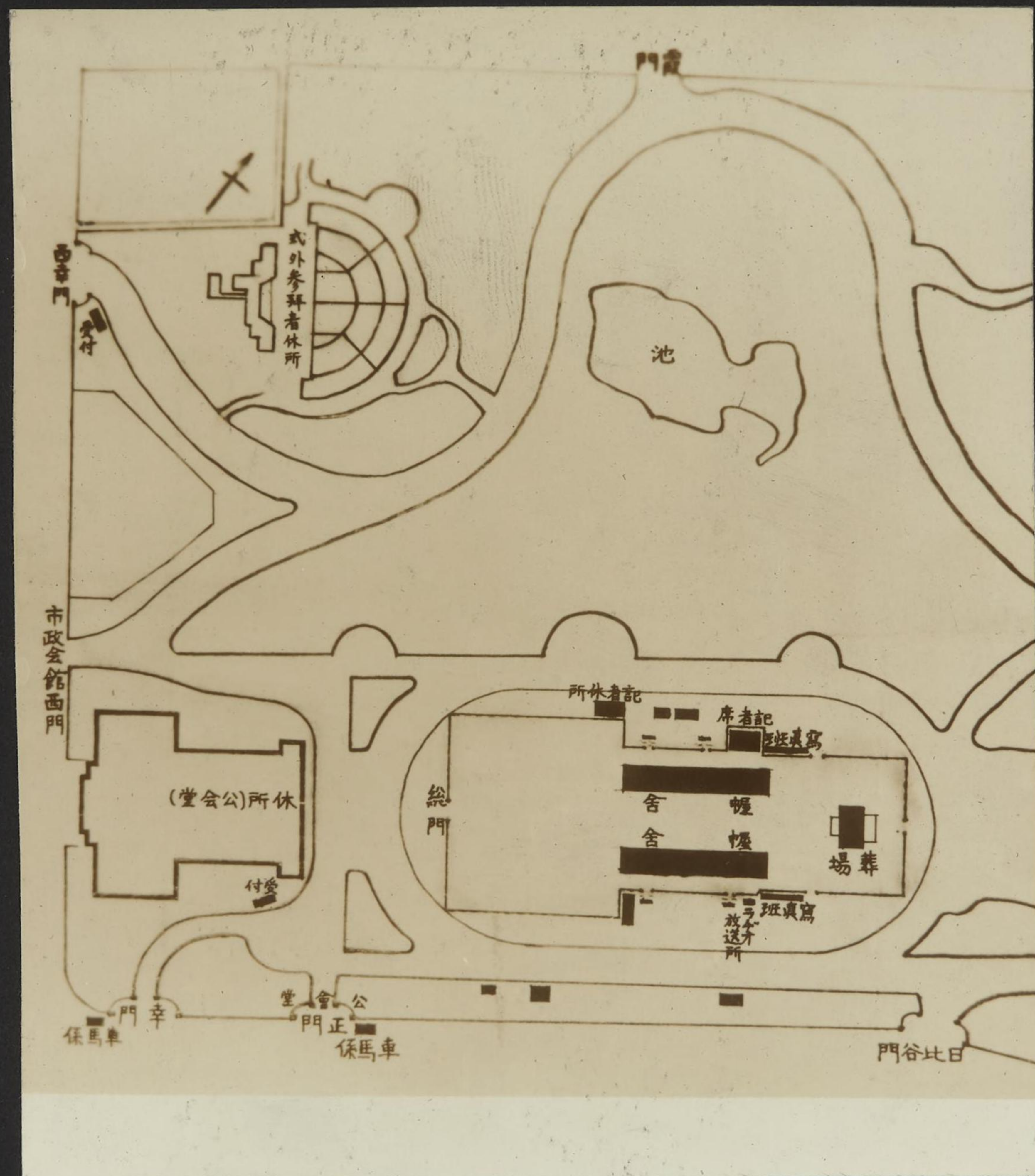


○ 玉琴像の遺品

其の口は香を配り北の西國や公の玉琴像
増の工多は着るに二好く下物
の湯を浴一、工多を急ぐに世を公國に
増、一、像の貝取回







同 同 寫 眞

第 十 一 十 五 號

十 五 年 十 二 月 二 日

の 京 會 館 の 引 越
 新 任 制 運 動 の 總 本 山 大 政 翼 贊 會 本 部 に 當
 て ら れ る た め 丸 の 内 の 兩 京 會 館 が 明 渡 し
 と な り 二 日 は 朝 々 引 越 せ ば 忙 し かつ た
 京 會 館 は 一 日 引 越 せ ば 忙 し かつ た
 一 日 引 越 せ ば 忙 し かつ た

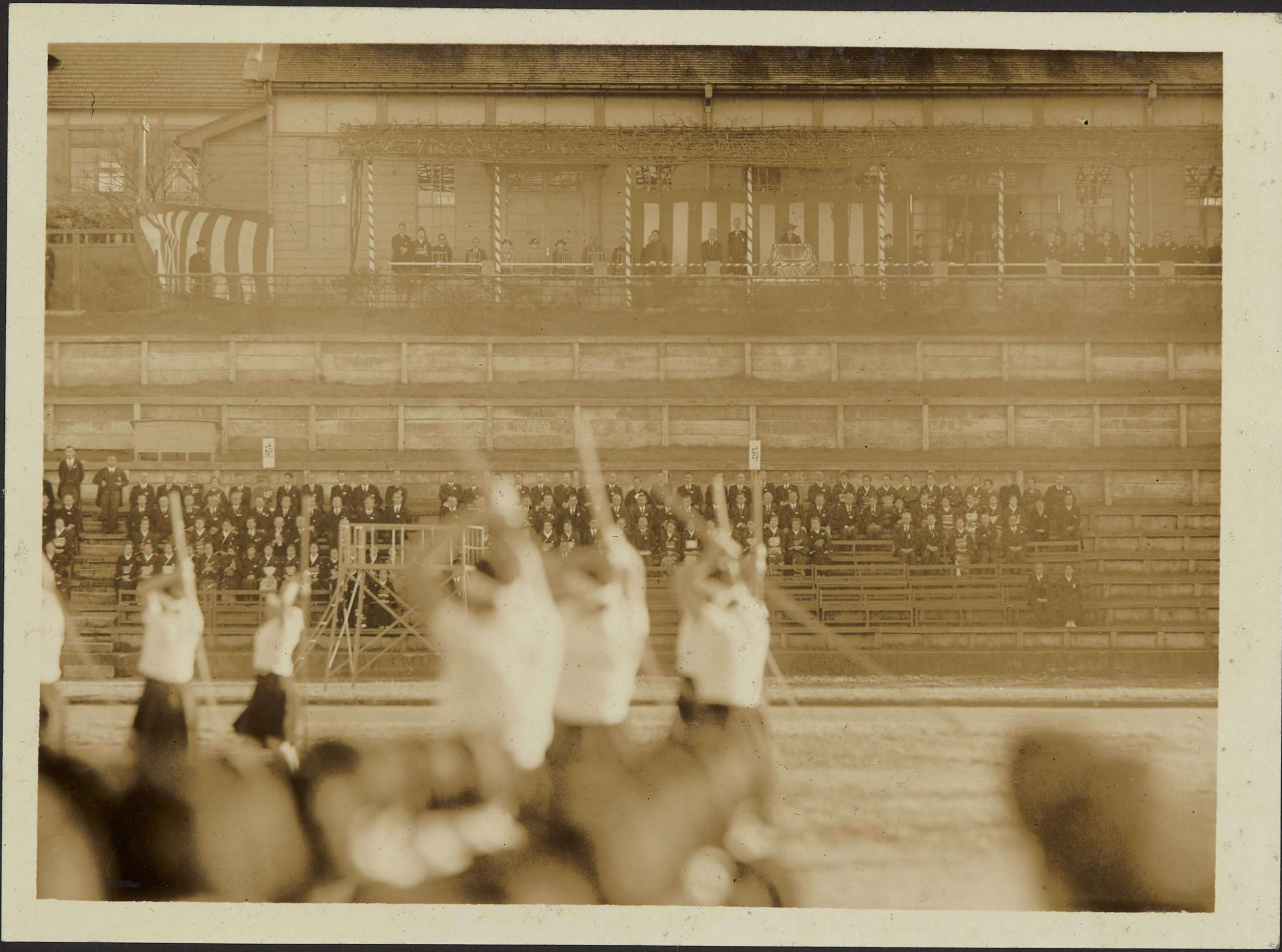


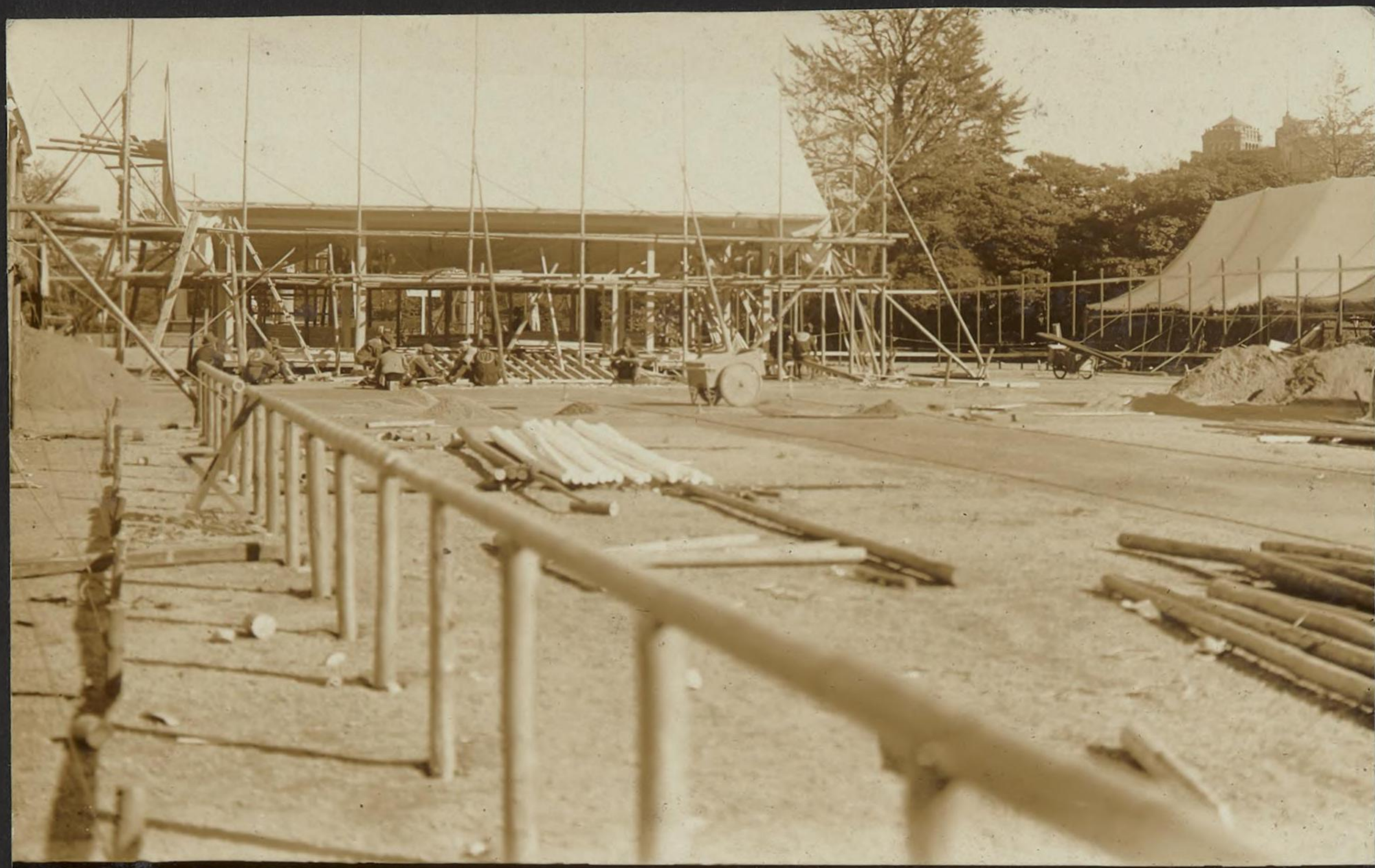
防火デーに女學生の演習
防火デー二日午前十一時半から目黒の
日の出高校では全校一千三百名の生徒
總動員で「家庭防火」の演習を行つた
寮には同演習



皇くも皇后陛下東京女子高等師範行啓
 召をもつて三日午前十時小石川區大塚町
 の東京女子高等師範學校並に同校内東京
 特設中等教員養成所に行啓、午前午後の
 長時間に亘つて親しく御巡覽あらせられ
 た。御巡覽は
 一、同校内御巡覽の皇后陛下
 一、同校内御巡覽の皇后陛下
 一、同校内御巡覽の皇后陛下







向日の西園寺公の國葬準備
 五日の西園寺公の國葬を前にして三日に
 け日比谷の霊永への鎮るべき世田ヶ谷區松
 共に公の靈永への鎮るべき世田ヶ谷區松
 陰神社跡の墓所の準備も全く成り當日を
 待つばかりとなつた。
 寧ろは一日比谷霊場の準備
 一、準備成つた墓所



同盟黨真

第十一十三號

十五年十二月四日

①慶びの満洲國大使館
 ルーマニアは先に日獨伊と締盟を約し今
 度は満洲國を承認して大東亞圈に對し深
 い親善を示した
 意は其の喜びに乾杯する（左より）
 ロンドール、ルーマニア代理公使、阮滿
 洲國大使 於四日満洲國大使館



◎台湾總督專務引繼ぎ
四日午前十時半から丸の内台湾總督府出張所總督室で新舊總督の專務引繼が行はれた。寫眞は右より長谷川新總督、小林總督



の照官様工場御見學
照官様には四日を暨前、御學友七十名と
御控ひにて日本硝子模造工場御見學のた
め御成り遊ばされた
御寫眞は御見學の御途新橋驛にて攝寫



同盟寫眞

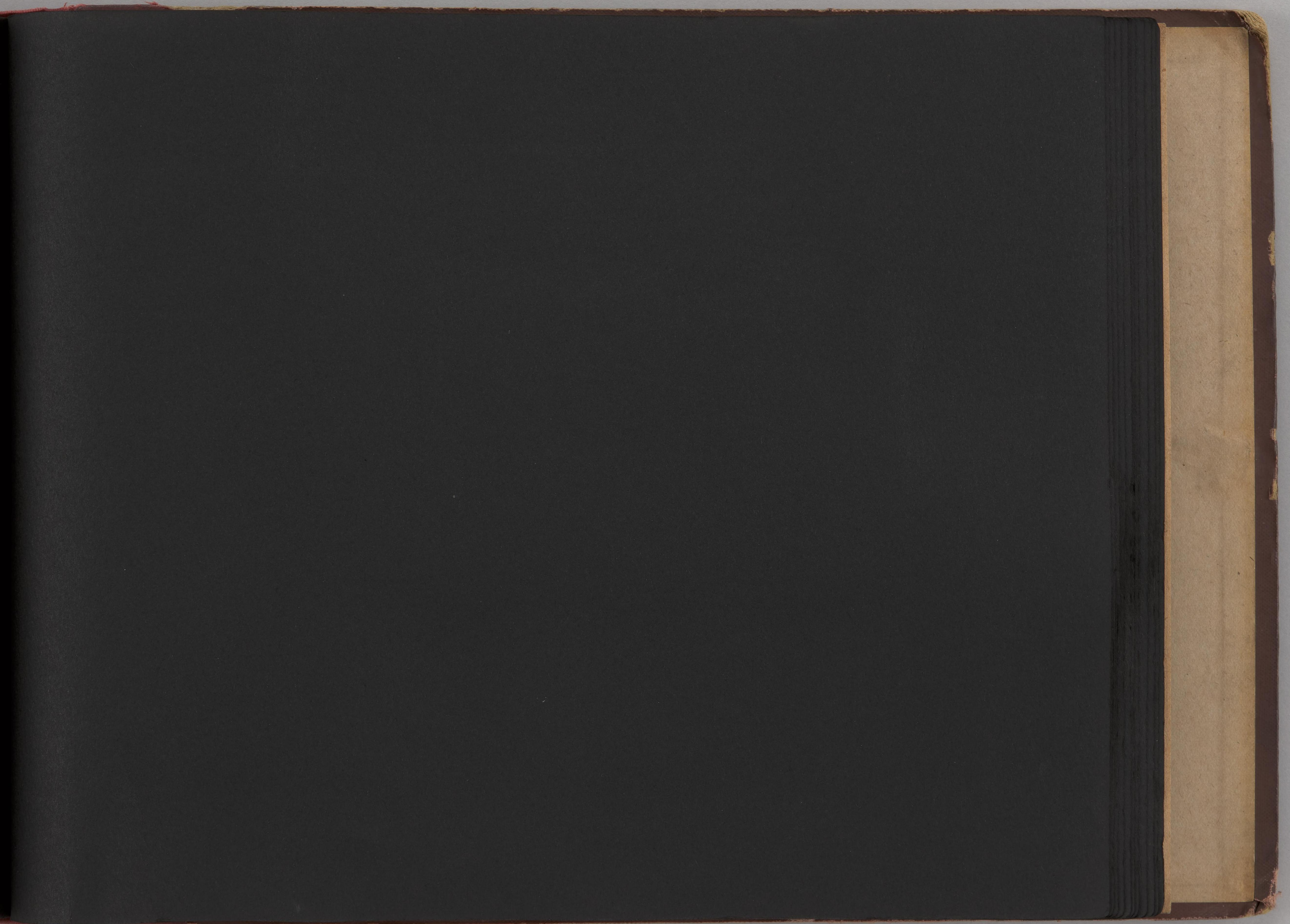
第十四一十九號

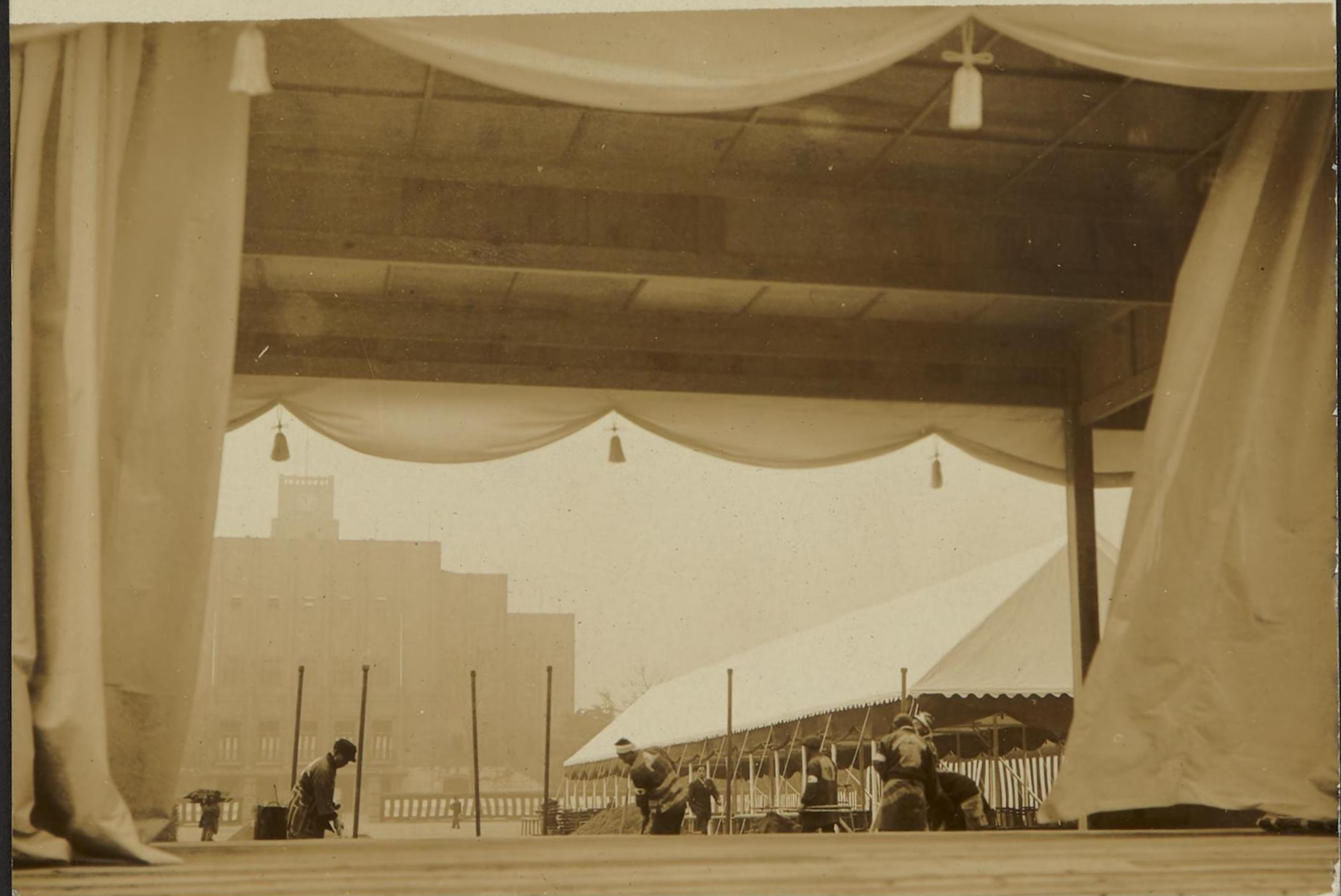
十五年十二月四日

の明日に迫つた國公の國葬

寫眞は

- 一、四日午前十時十分國葬に先立ち外相官邸へ勅使として牧野侍從御差遣
- 一、準備成つた日比谷の國葬儀場(二種)





同明寫眞 第十一廿一號 十五年十二月五日

西園寺公國葬

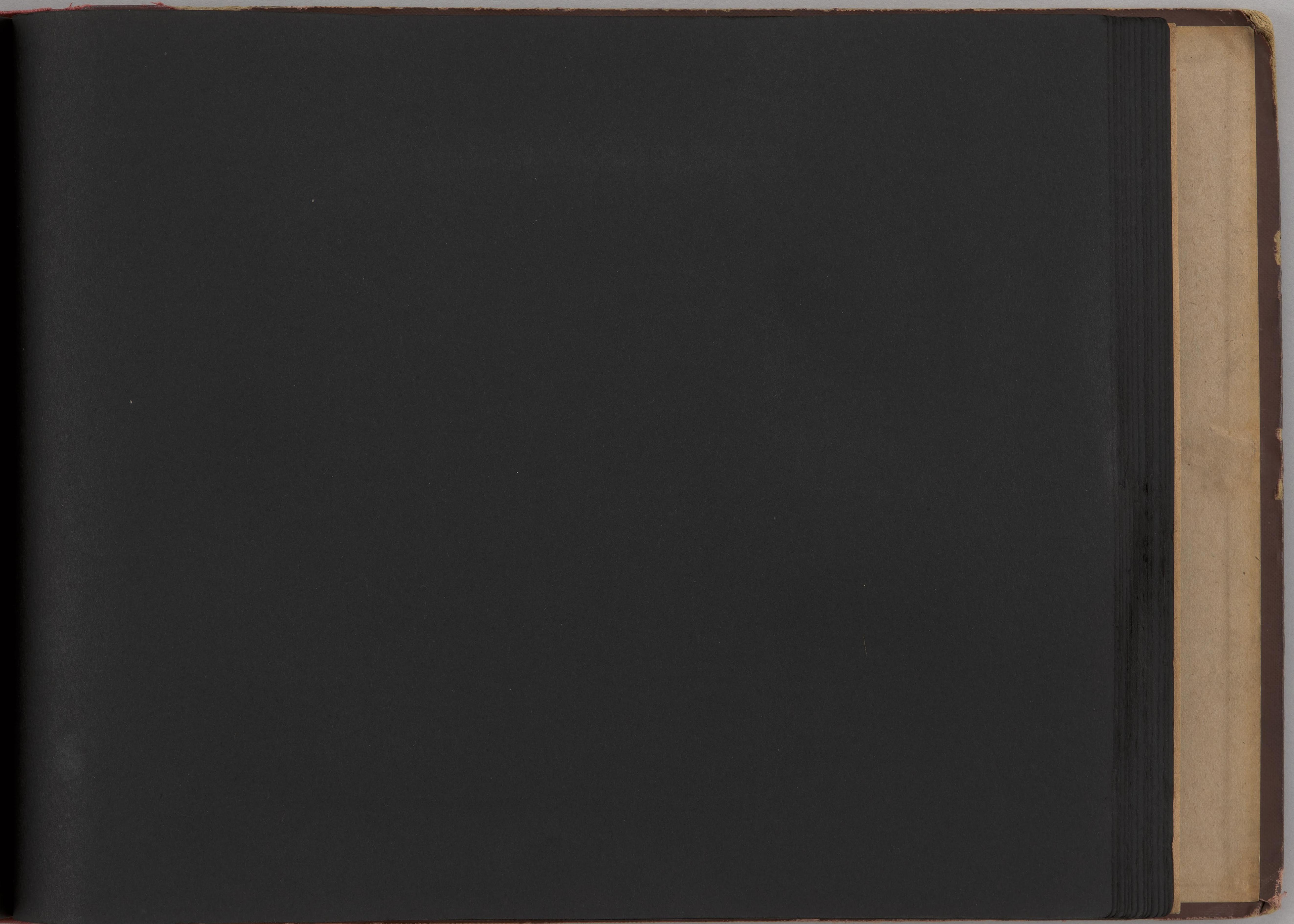
故從一位大勳位西園寺公望公の國葬は五日午前七時先び返前祭の儀を以て舉國哀悼の裡に行はれ好天に惠まれて豫てのプログラム通り滞りなく各儀式が嚴肅に進められた。

- 一、議事堂前通過葬場に向ふ靈柩車
- 一、日比谷葬場前の葬列
- 一、勅使御拜禮
- 一、梨本宮殿下御拜禮
- 一、遣旅席に於ける一右より一喪主八郎氏、公一氏
- 一、參列の各大臣顯官連
- 一、葬場に到着の靈柩車
- 一、顯官連の拜禮











同門憲置 第十一十四號 十五年十二月六日

平沼無任相參内

平沼一男は六日朝無任所大臣親任式のため参内した。憲置は自宅玄關にて

内閣情報局の新看板

内閣情報部が陸、海、外、遞等の各省情報

部を打つて一丸とした「情報局」に昇格

した六日、元帝劇の同廳舎看板も憲置の

通り面目を新たにした



○賀陽宮殿下御赴任

賀陽宮恒憲王殿下には今般陸軍少將に御

進級、千葉の某部隊要職に御轉補遊ばさ

れる事となつた

御軍は六日朝霧町三登町の官邸にて講寫

○閑院官の御銅像

陸軍省參謀本部大本營陸軍省に奉職する

將校全員より閑院元帥宮殿下の御高徳を

仰ぎ奉つて殿下の御銅像を献上する事と

なり彫刻の大家北村西望氏がその講製を

仰せつかつた。

寫眞はその下繪に想を練る北村氏



◎前田海軍報道部長

情報局の新設に伴つて海軍軍事普及部が
廃止され大本營海軍報道部は存知されそ
の部長に前田 稔少將が任命された

寫眞は前田部長

◎女子青年團の獻穀式

全國の大日本女子青年團員から明治神宮
へ神饌米奉奠のため七十五名代表の宮
城遙拜 が百朝入京した寫眞は同



同照寫眞

第十三十六號

十五年十二月七日

○二千六百年奉祝演奏會

獨伊佛匈各國から我が紀元二千六百年の
ため寄せられた奉祝樂曲は愈々七日午後
一時から歌舞伎座に於て發表演奏會が開
かれた。

一、台臨の各宮殿下、御右より秩父宮殿

下、朝香宮湛子女王殿下、李鏗公妃

殿下、三笠宮殿下、李鏗公殿下、朝

香宮殿下

一、我が樂團總動員のオーケストラ、指
揮は山田耕作氏





○駐支大使本多氏
去月廿日正式に中華民國國民政府が承認
されたので正式支那大使として七日に本
多熊太郎氏が親任された
○本多氏は自宅より参内の本多氏
○大政翼賛會報
○大政翼賛會報創
寫は今度發刊された大政翼賛會報創
刊號一四六四倍判、九段組、八ページ



同 照 寫 眞 第 十 七 一 十 九 號
十 五 年 十 二 月 七 日
◎ 観 光 ポ ス タ ー
観 光 局 で 新 た に 全 東 洋 へ 呼 び か け る
観 光 ポ ス タ ー と 観 光 カ レ ン ダ ー



同盟官報通信

十五年十二月七日

⑤

独機の強力爆弾「モロトフのパン籠」の
ため、隣れ無惨にも破壊され、
市図書館内の一室、



同盟宣真前十一月八日 日曜
「内地通信」

◎庭球功労者表彰式

日本庭球協会では創立十周年記念として
会並に功労者、朝吹、坂田、熊谷、清水、
高田、針里、片岡、七尾の表彰式を七日
夜九時の会館にて盛大に挙行した。
出席は片岡、功労者として左下、針里、
高田、片岡、一人おいて清水、熊谷、七尾

◎一善の魔心の大坊主

佛敎の聖典に「持戒経」を脚色して「悪魔の誘惑」
と云ふ小説が流行した。夜浅草の佛道會館に
演劇會社が「悪魔の誘惑」は仲見世をやり終
るといふ目録を發行した。





同日寫眞

第千一十四號

十五年十二月九日

陸軍大學卒業式

陸軍大學では九日午前十時半から第八期
専科學生の卒業式を舉行して畏き邊りよ
り御差遣の朝香官鳩彦王殿下の台臨を仰
ぎ奉つた。

一、御差遣の朝香官殿下同校御着

一、優等生吉田伸雄（右）堀田吉明（左）

氏



◎白衣の勇士作品展
九日から三日間第一陸軍病院内で白衣の
勇士の作品を集めた「美術展覧會」が開
かれその多い作品三百余點が出陳され觀
覽者を感じさせた
寫眞は同展覧會内の一部
◎スキヤ一切符配給の懸けひ
九日午前十時から上野驛にて新考案のス
キヤ切符の交附が開始され忽ち九百余人
のスキヤヤが列をなして押すなと
詰めかけた。上野驛
寫眞は上野驛に詰めかけたスキヤヤ





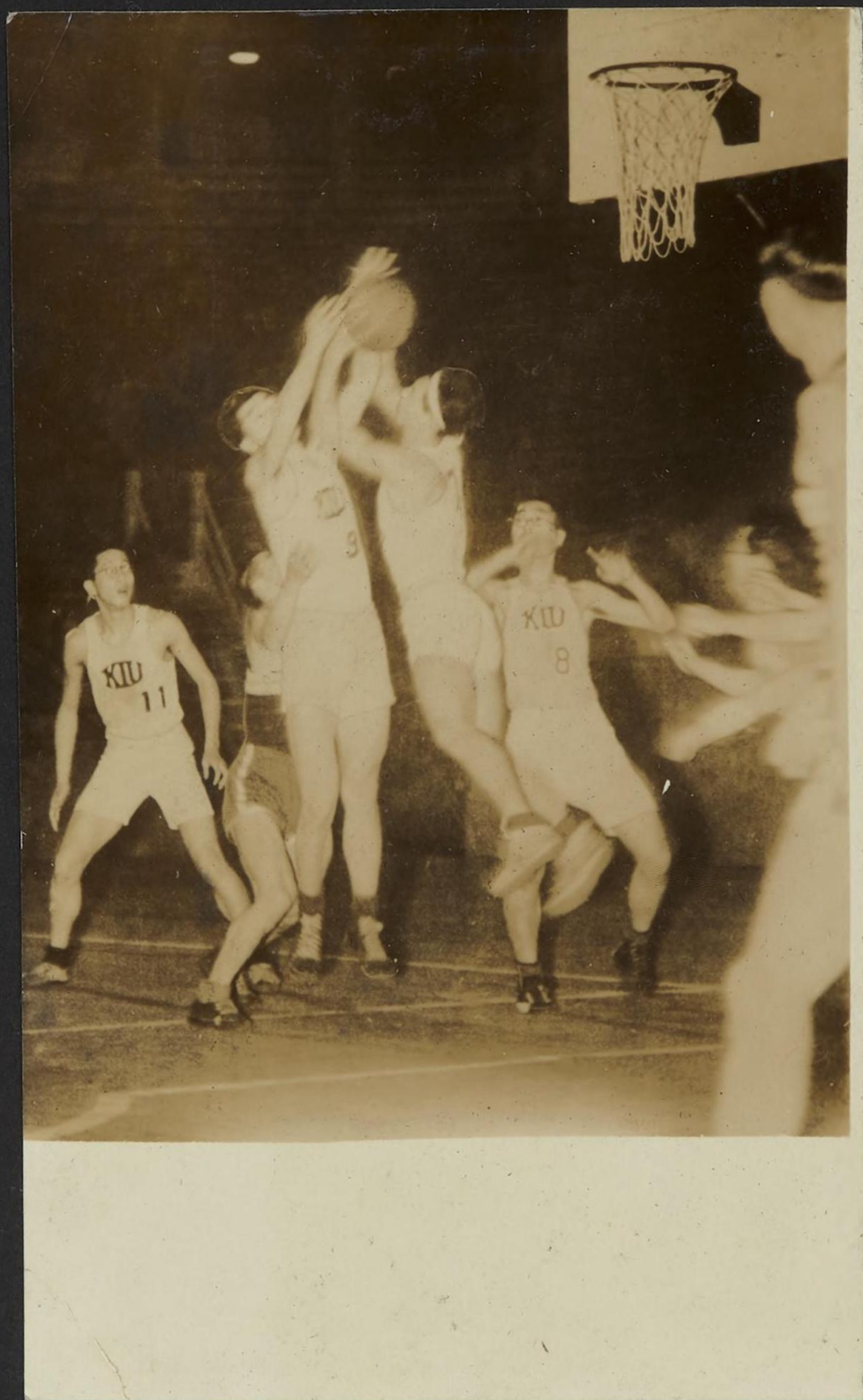
同 野 爲 眞

第 十 一 十 一

十 五 年 十 二 月 十 日

○ 谷 本 中 將 軍 狀 奏 上

前 中 支 方 面 海 軍 最 高 指 揮 官 谷 本 馬 太 郎 海
 軍 中 將 は 十 日 午 前 九 時 十 分 東 京 驛 着 に て
 一 々 年 振 り に 前 線 よ り 歸 還 直 ち に 宮 内 省
 差 廻 し の 馬 車 に て 軍 狀 奏 上 の 爲 參 内 し た
 寮 眞 は 敬 禮 す る は 谷 本 中 將 (東 京 驛 前 路)



◎籠球に立教の連覇成る
第十回東西對抗學生籠球關東立教對關西
京大二回戦は九日夜神宮外苑水泳場コ
トで舉行、五十三對四十六で立教は二年
連続覇權を獲得した
立教は前半十七分立大ゴール前の熱戦

◎國庫地雞等天然記念物

：史蹟名勝新指定。

文部省では九日史蹟、名勝、天然記念物
として崇福寺址、金峰山、地雞等計三十

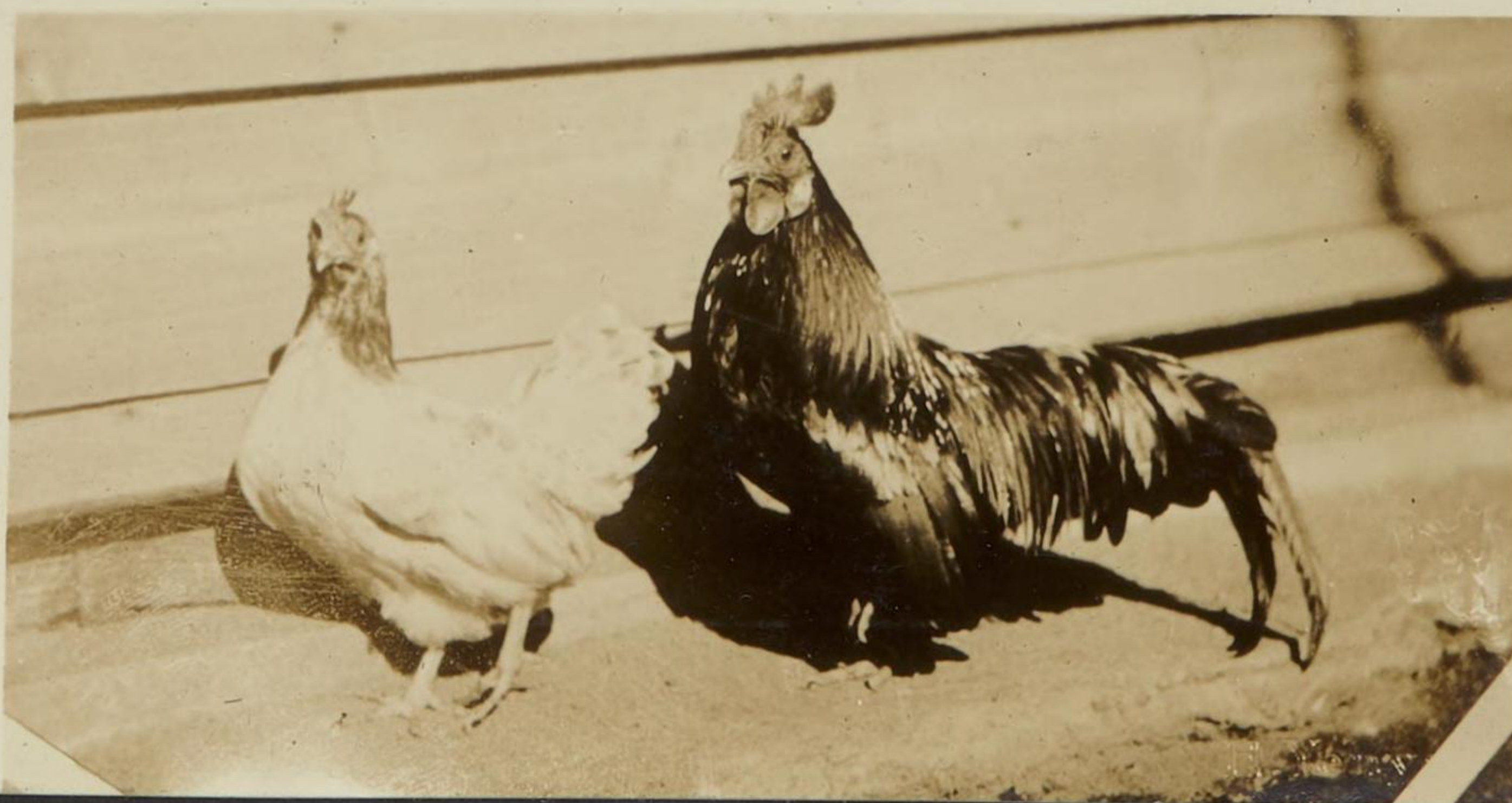
件を新たに指定した

寫置は新指定の一部

一、崇福寺址 一、富山縣飯久保の瓢箪

一、高知縣の黄笹鶏

石



同照寫眞 第十一十四號
十五年十二月十一日

○保育所寫眞獻上
十一日厚生省から保育所の生活状態の快
書及寫眞帳が兩陛下へ獻上された
寫眞は同寫眞帳内容の一部

○芳澤懐節西下
小林商相の後任として日露印交渉にのぞむ帝國
代表芳澤謙吉氏は十一日午後一時東京驛
發で出發西下した
寫眞は特急「かもめ」にて出發の芳澤氏



○翼贊會指導者講習

十一日午前十一時半から翼贊會中央本部
（舊東京會館）三階ホールに於て指導者

講習開講式が擧げられた

寧ろは有馬事務總長の訓辭

○翼贊會東京支部結成

十一日午後一時から軍人會館に於いて大

政翼贊會東京府支部の結成式が擧げられ

た。官員は之に先立ち支部役員八十余名

の明治神宮參拜



同題寫眞

第七

十五年十二月十二日

◎樂匠へ屏風の贈物

獨、伊、洪、佛の四國各一流の樂匠より
我紀元二千六百年奉祝樂曲を贈らるゝに
對し奉祝會では寫眞のやうな紀綱の豪
華な四曲屏風が贈られる事となつた



我が科学産業陣を全動員する「科学動員
協會」が設立、十二日午前十一時から帝
國ホテルで發會式を舉行、官民各方面か
ら約一千余名出席して盛大であつた
憲章は近衛會長の祝辭を代讀する星野總裁



同日寫眞

第十一—十四號

十五年十二月十三日

○御仁慈の木炭配給
皇后、皇太后兩陛下には都下の各官公私
設診療園体のため長くも宮中の御料を御
節約し給ひ御仁慈籠る木炭一千百俵を下
賜あらせられ十三日朝は早くもトラック
荷車等で各診療園へ運ばれて行つた
寫眞は下賜木炭運ばれる一於大手門前





◎皇后陛下赤坂假御所行啓
皇后陛下には十三日午前十一時十五分宮
城御出門御久方振りに東京假御所へ行啓
あらせられた。
御寫眞は御所前にて謹寫

○皇太后陛下多摩陵御参拜

皇太后陛下には十三日午前十時半大宮御
所御出門。原宿驛より多摩陵へ御参拜あ
らせられた。

御座置は原宿驛前にて謹焉

○牛島中將入京

南進基路の重責を果した前台湾軍司令官
牛島中将は十三日午前八時四十五分
東京驛着入京した。
皇座は出迎への東條陸相





○洪、羅兩國參加祝賀會
さきに三國同盟に參加したハンガリー及
びルーマニアの參加祝賀會が松岡外相主
導のもとに十四日零時半から外相官邸で
催された。急遽は同祝賀會の乾杯中央松
岡外相、その右ギダラスベギ、阿南次官、左
藤がルーマニア、ダラスベギ、公使、武
者小路氏



同照寫眞

第十四十八號

十五年十二月十四日

中央協力會議の準備なる

待望の大政翼賛會運動を地方支部に徹底

せしむべき臨時中央協力會議は明後十六

日に迫り丸の内東京會館三階の議場の準

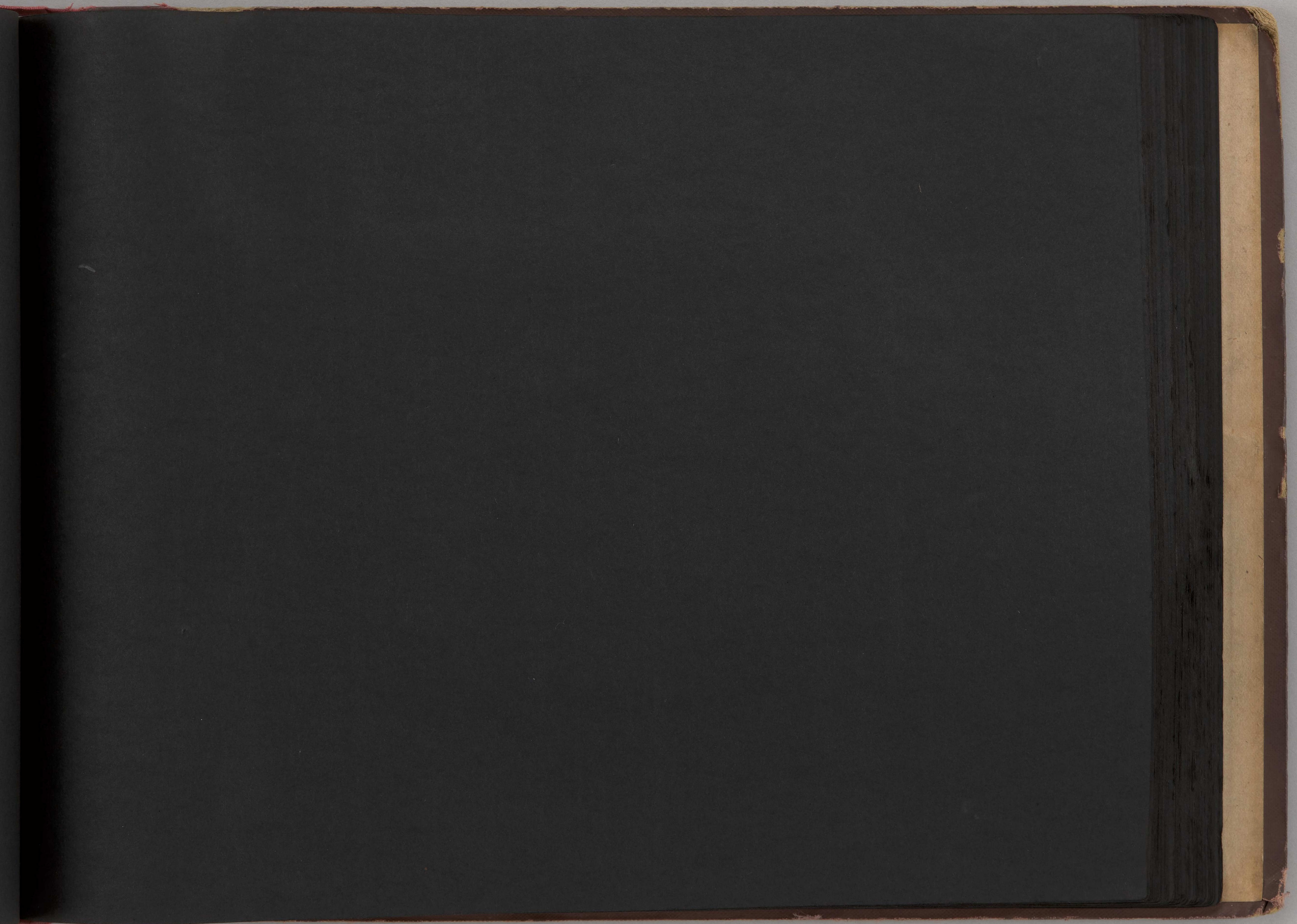
備は全くなつた

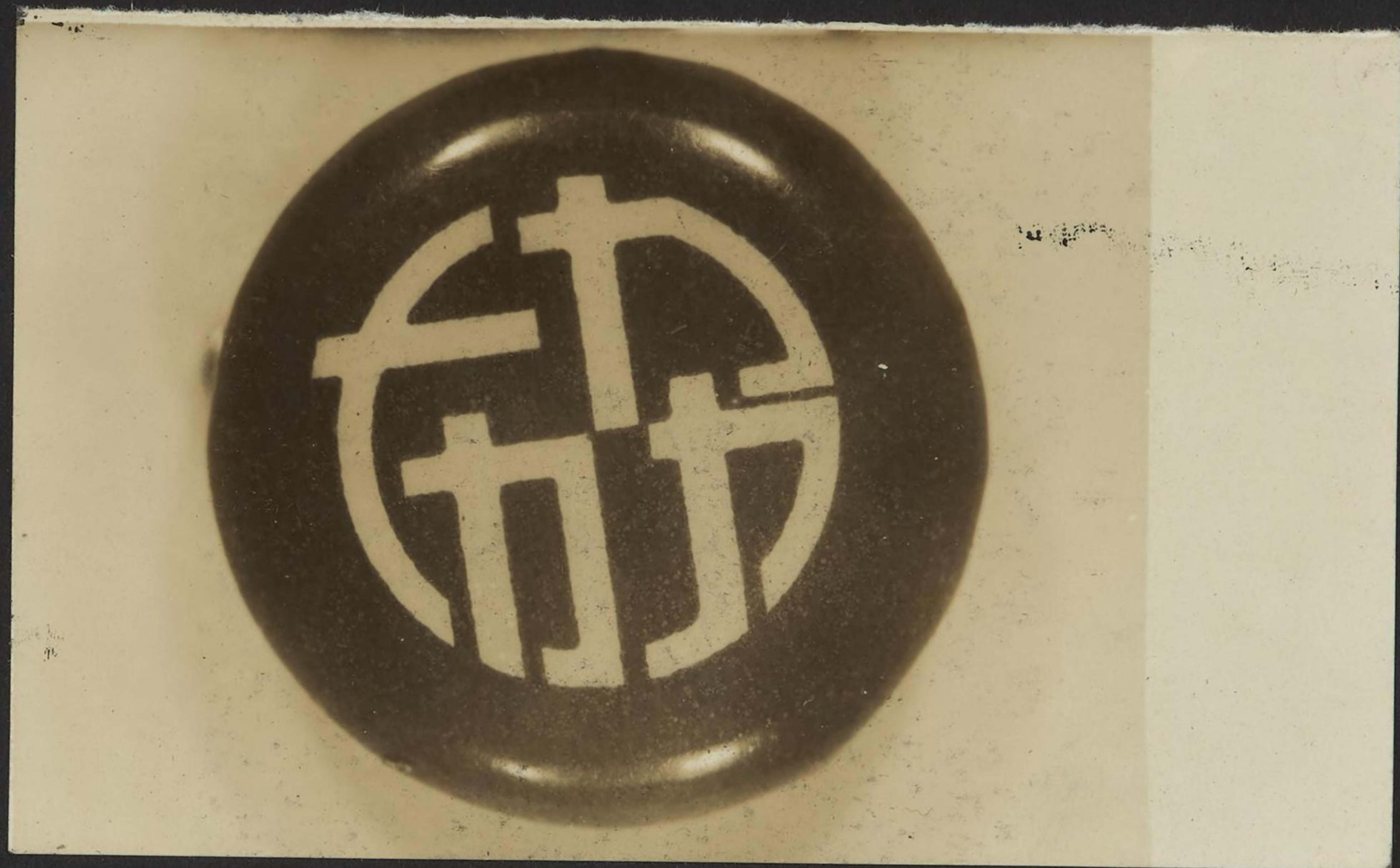
東京は一、準備なつた議場

議案は一、同バツヂ

十一月九日







同日通島真部 十二月十五日 内地通信

同日通島真部軍司令官巨木小

大藩にて武勲を以て此度台湾軍司令官に
轉補され本間中將は十四日午後五時廿分在島船
着の列車にて入京し一也。

台湾軍司令官巨木の令中將

同日古式赤き打越会

此の者主島真部の打越会は十四日午後五時
主島真部防に於て古式に則つて盛大に開かれ
古式母衣曳



回 方を結つ支那大使館

昭和十三年六月鎖子山支那大使館にも表の如
此、新支那の初代大使褚民誼氏の赴任を前に
全館の井の修理を多々行つておる
留まると修理に大急ぎの大使館

回 傷痍軍人も多々加珠昇大会
白衣の軍士も多々加して二十四百記念珠昇
大会及大会は十五日午前九時より中央大学
港で開かれ也。
山崎等は多々の白衣の軍士



同明編原

第十七卷

十五年十二月十六日

の中央協力會社開會

日本政治史にエポックを劃する新体制
初の大政翼賛會議は愈々十六日午前十時
を以てその輝やかさの幕を開いた
一、その全景中央は挨拶する近衛總裁
一、近衛總裁、有馬總長、末次會議長の
挨拶（三種）

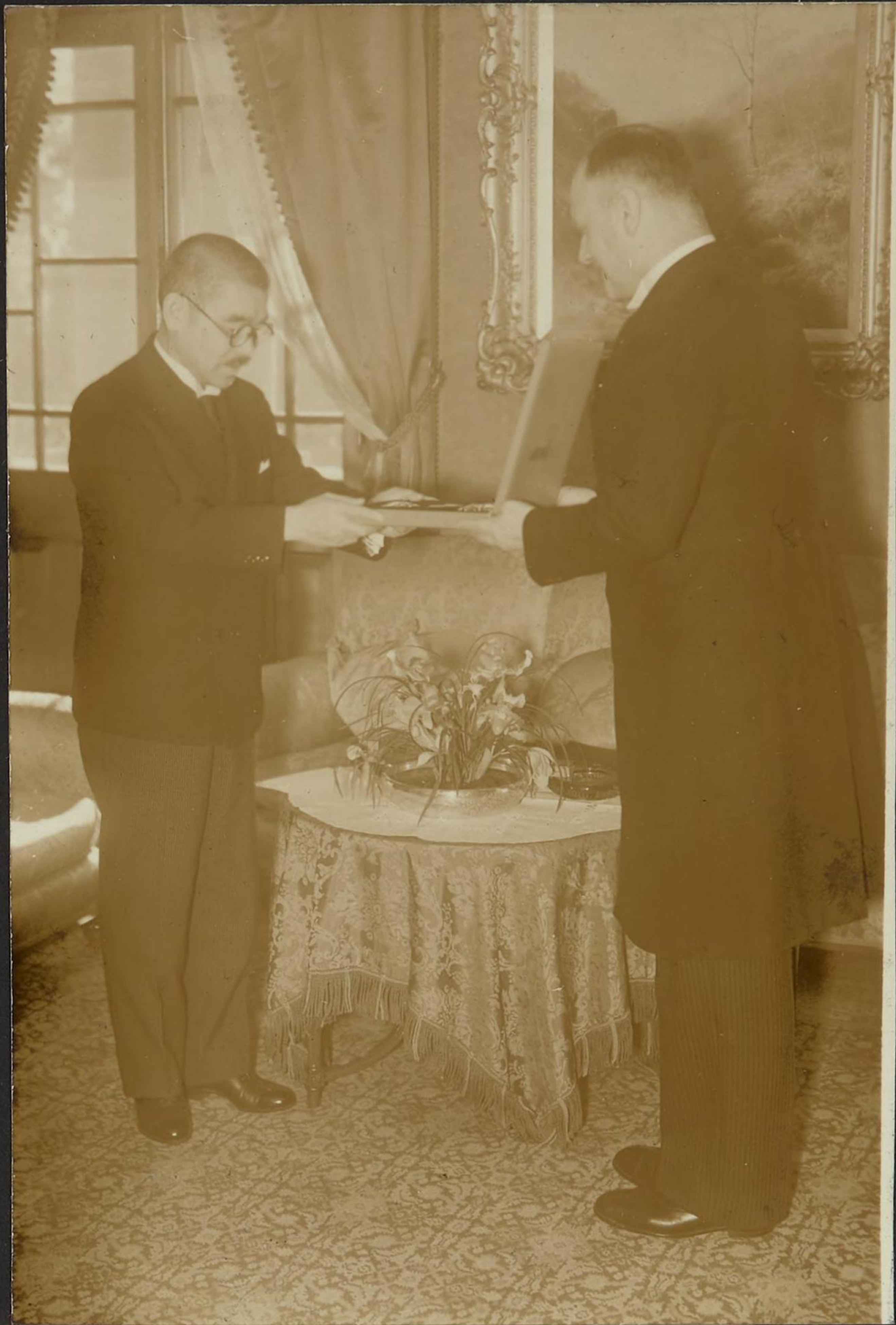


○松岡外相に勳章

三國同盟締結の功勞者として獨逸から松岡外相へ同國の最高勳章のグロース・クロイツ。アイドレル章が贈られ、十六日午前十一時半オットー・メーヤー大使が外相官邸に松岡外相を訪問、贈呈式を行った。寫眞はその贈呈式

○推進險入京

農林省農業増産報國推進險第一期班は十五日内原訓練所で盛大な終了式を挙行し、十六日早朝から續々入京した。寫眞はその入京第一陣靖國神社參拜



◎既大使夫人お茶の會

既日滿洲國大使として在任三年半に亘つた既振鐸氏の歸國を前に同夫人淑文さんは十六日正午から軍人會館に日滿親善に盡した婦人約五十名を招待してお茶の會を催した。寫眞は中央が既夫人

◎日獨伊兒童交響會

十五日午後一時半から日比谷公會堂に於て日獨伊兒童交響會が開かれた。寫眞は橋田文相と大久保市長を圍んで三國萬歳を唱へる交響會の少年少女



同盟寫真通信

十五年十二月十七日



中央協力會議 第二日目

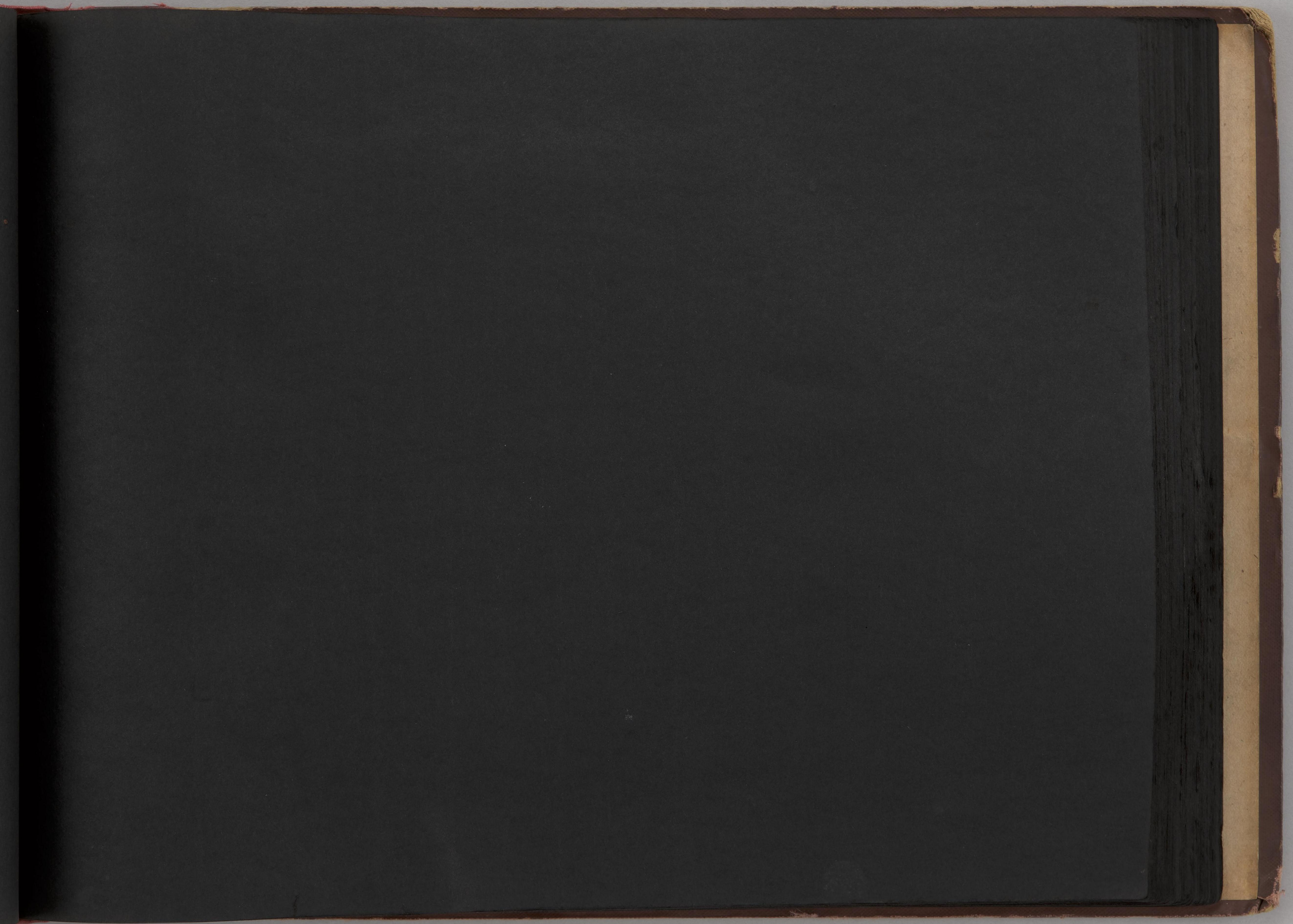
寫真は十二月十七日中央協力會議第二日目

一回會議全景

一回會議場紅一点の高良富子女夫婦人相異
賛に關する提案説明

一 首相官邸に於て近衛總裁招待議員一同午
餐會







同照寫眞

第十五十九號

十五年十二月十八日

◎重要美術品指定

文部省では十七日重要美術品調査委員會
を開いて新たに三百十六件の重要美術品を
認定した。寫眞は上右より足利時代支那
渡來の陶製肩衝茶入、豊臣秀吉から徳川
家に傳はつた銅製雙龍錫杖、渡邊華山筆
立原平軒畫像、下は乗禪寺の古石塔



◎義宮様の青山御殿
移居の青山御殿

◎翼贊叢書刊行

大政翼贊の宣傳叢書六冊六種が十七日發行頒布された。書原はその内五種

◎清磨公銅像除幕式

護國の大忠臣和氣清磨公の銅像は十八日午前十時から宮城外苑厚生省前に除幕式が舉行された。

